



元寇遺物「大椀」の一般公開

鷹島沖で発見された木製大椀の公開が5月3日、市立鷹島埋蔵文化財センターで始まりました。

この大椀は1281年(弘安4年)の「弘安の役」の台風で沈んだ元軍船のイカリと見られており、平成6年11月神崎港改修工事に伴う鷹島海底遺跡の発掘調査で発見された複数のイカリのうち最大のもの。途中で欠けている椀の長さ(中心部の碇身)は2.66^尺、欠けていなければ推定で7.3^尺あったとみられ、総重量は2つの碇石(計338^{キログラム})を含めて1^ト近くあったとみられています。この大椀から推測すると、全長が約40^尺におよぶ大型の戦艦ではなかったかと思われます。

学芸員の山下^{ひさこ}さんは「ぜひ多くの人に見学していただき、約730年前の元寇の歴史のロマンを感じてほしいですね」と話していました。



和船競漕で熱戦

鷹島町阿翁浦地区の伝統行事で「せいぐろ」と呼ばれる和船競漕大会(和船競漕保存会主催、高橋敏晴会長)が5月5日、阿翁浦港で開催されました。

地域の活性化や豊漁、子どもの健やかな成長を願って毎年「こどもの日」の5月5日に開催。平成5年に旧鷹島町の無形民俗文化財に指定されています。

今年は、阿翁浦地区など市内から21チームが参加。多くの観客が見守る中、和船にそれぞれ約10人の選手たちが乗り込み、往復約300^尺のコースでタイムを競いました。上位の結果は次の通りです。

- ①漁協青年部A (3分02秒)
- ②漁協青年部B (3分27秒)
- ③阿翁浦地区5、6組 (3分58秒)

まつうらぐるっと商品券の販売スタート

10%の消費者特典付商品券「まつうらぐるっと商品券」の販売が4月24日、市役所や商工会議所など12カ所で始まりました。

この商品券は、官民一体となって、市民の連帯感を創出し、市民の市内での購買意欲の向上を図るとともに経済支援により市民生活の安定を目的に販売。5,000円で5,500円分の商品券(500円の11枚入り)が購入でき、市内の商店など約330店舗で使用できます。初日のこの日は、市民などが約300セットを購入。商品券は限定1万セット販売され、1人10セットまで購入することができます。7月末まで販売予定ですが、完売次第終了されます。



ツツジをバックにイベントにぎわう —不老山花と光のフェスタ—

「第13回不老山花と光のフェスタ」が4月11日から30日まで開催され、期間中市内外から約3万人が訪れました。

19日にはステージイベント、スケッチ大会、ウォークラリー大会、ミニゲーム、29日にはグラウンドゴルフ大会などが行われました。会場を訪れた人たちは11万本のツツジをバックにイベントを楽しんでいました。グラウンドゴルフの上位の結果は次の通りです(敬称略、()はチーム名)。

- ①山崎薫(里不老会) ②中島延寿(今福) ③石橋サチ子(里不老会)
- ④今野端美(鷹島三里)
- ⑤谷口昭善(鯛川グリーンクラブ)
- ⑥福本政二(寺ノ尾中C)
- ⑦田中カズオ(里不老会)
- ⑧小楠強次(鹿町愛好会)
- ⑨眞島鎮馬(さわやか)
- ⑩瀬川洋子(里不老会)



近藤コナミさんが100歳

近藤コナミさん（福島・伊万里釜）が5月9日、入所している特別養護老人ホームいろは島荘で100歳の誕生日を迎えました。

近藤さんは明治42年生まれ。若いころは漁業とイリコ製造、農業に従事。高齢になってからは近所の人とゲートボールなどをしていました。現在は施設内でレクリエーションなどをして楽しんでます。好き嫌がなく何でも食べることが健康の秘けつとのこと。

この日は、同施設内で家族や施設の人から祝福を受け、友広市長からお祝いの言葉や花束を受けました。



グラウンドゴルフなどで交流

第4回松浦市婦人ページェントが母の日の5月10日、不老山総合公園で開催されました。

志佐・星鹿・今福・鷹島の婦人会会員で構成する松浦市地域婦人会連絡協議会（榎元あや子会長）が、会員相互の交流を目的に毎年開催しています。

この日は、会員約150人が参加。グラウンドゴルフや鷹島音頭、よかところ節、輪投げなどを行い、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



松浦メロン祭りにぎわう

毎年恒例の「松浦メロン祭り」が5月5日と6日の2日間、道の駅松浦海のふるさと館で開催され、キンショーメロンとアールスメロンを販売しました。

今年も天候にも恵まれ、キンショーメロンは玉太りも良く、甘さも上々。アールスメロンはネットの張りも良く、糖度15度以上と最高の仕上がりとのこと。市価より安いとあって、市内外の買い物客が大勢詰めかけ、約2,700ケースのメロンが飛ぶように売れていました。

また、会場には宅配コーナーも設けられ、新鮮なメロンを遠くの親せきなどに送ろうと長蛇の列ができていました。

福島町にツバキ油製油施設完成

福島町の障害者通所授産施設ホープステーション（社会福祉法人^{ゆめおいかい}松田博理事長）で5月8日、新しい加工所の竣工式が行われました。

松田さんは平成12年ごろから自分の農園に社会復帰支援のための障害者の受け入れを開始。その後17年に法人を設立し、同施設を開所しました。今回、障害者自立支援法の改正に対応するため施設や機器を整備したものです。

新加工所は木造平屋で約120平方メートル。ドレッシングやジャムが製造できるほか、ツバキの実からツバキ油を搾る機械も導入しました。市の花でもあるツバキの実から搾るツバキ油の製油作業は、これまで五島市や熊本県に依頼していましたが、同加工所の完成で市内でも行えるようになりました。

